

2021年6月21日
行政報告資料
町田市民病院事務部 経営企画室

町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）及び 事業計画の進捗状況について（2020年度）

町田市民病院では、質の高い医療サービスを提供し、安定した病院経営を維持していくために、「町田市民病院中期経営計画（2017年度～2021年度）」及び「2020年度町田市民病院事業計画」を策定し、これに基づき、経営改善を進めております。

このたび、2020年度の進捗状況をまとめましたので、その結果を報告いたします。

添付資料

- ・ 町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度）

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度）

◎：事業計画目標を上回る
 ○：概ね事業計画目標を達成
 △：事業計画目標を下回る
 ×：事業計画目標を大きく下回る

2021年6月21日
 行政報告資料
 事務部経営企画室

1. 患者・マーケットに関する取組 ～患者サービスの向上と医療連携の推進～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(全期)の実績	自己評価
(1) 患者満足度の向上 【2019年度】 入院患者満足度 90% 外来患者満足度 85%	入院患者満足度 90% 外来患者満足度 90%	入院患者満足度 84.3% 外来患者満足度 88.9%	・患者給食の充実 ・外来待ち時間の短縮	・入院患者満足度は84.3%となり、2019年度実績(90.2%)と比べ5.9ポイント低下しました。外来患者満足度は88.9%となり、2019年度実績(87.8%)と比べ1.1ポイント増加しました。 ・産後食の満足度を上げるべく献立改定を給食事業者と共同で着手し、2021年2月から新たな産後食の配膳を開始しました。また、産後食を配膳した全患者にアンケートを実施しています。 ・逆紹介の推進による外来患者数の適正化を図り、待ち時間の短縮に繋げる取組みを行いました。	△
(2) 情報提供の充実 【2021年度】 病院ホームページアクセス件数 12万件/月 【2019年度】 病院ホームページへのクリニカルパス掲載数 60件	病院ホームページアクセス件数 12万件/月 市民公開講座の開催回数 6回	16.4万件/月 開催回数 1回	・ホームページのリニューアル ・市民公開講座の開催	・新型コロナウイルス感染症の院内感染が発生したことでホームページにアクセスが集中し、一時期閲覧できない状態となっていました。町田市ホームページ上に臨時のページを設けることで病院情報の発信を継続しました。また、今後に備えてホームページのサーバー強化を行いました。 ・ホームページのリニューアルは、新型コロナウイルス感染症にかかる対応業務が増大したこともあり、現状のホームページを活用することで先送りすることとしました。 ・市民公開講座は、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを避ける必要から、会場での開催を中止せざるを得ない状況となったことから、2021年3月にWEB開催として配信した1回のみの開催となりました。次年度は感染状況を踏まえて、WEB開催を中心に開催する予定です。	×
(3) 医療連携の推進 【2019年度】 紹介率 65% 逆紹介率 45% 【2020年度】 地域医療支援病院 承認	紹介率 70% 逆紹介率 70% 地域医療従事者向け研修 15回 医療機関訪問件数 30件	紹介率 74.4% 逆紹介率 72.8% 地域医療従事者向け研修 10回 医療機関訪問件数 18件	・地域医療支援病院としての機能強化 ・地域医療従事者向け研修の実施 ・医師同行医療機関訪問の実施	・地域医療支援病院として、新型コロナウイルス感染症の診療と、地域医療機関などからの急性期患者の受入れの両立を目指しました。コロナ禍での紹介患者の制限、医療機関訪問の制限などもあり、2019年度実績(76.5%)に比べて若干のマイナスとなりましたが、目標の70%は上回ることができました。 ・退院時のかかりつけ医への情報提供を継続して行うなどした結果、逆紹介率は72.8%となり2019年度実績(70.3%)と比べて2.5ポイント増加しました。 ・地域医療従事者向け研修を23回予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、実施は10回となりました。 ・新型コロナウイルス感染症患者の新規受入病床を確保するために、後方病院への医療機関訪問(医師同行を含む)を18件実施しました。	○
(4) 高齢患者に安心な退院支援の充実 【2019年度】 退院支援件数 1,400件/年 （「退院支援加算2」の算定件数）	入退院支援件数 2,500件/年 （「入退院支援加算1」の算定件数） ※入退院支援加算1と入退院支援加算2の主な違い ・病棟への入退院支援職員の配置の要否 ・面談、カンファレンスの実施期限の有無	入退院支援件数 2,112件	・入退院支援の実施	・新型コロナウイルス感染症の影響で患者数が減少したこともあり、入退院支援加算算定件数の目標を達する事ができませんでしたが、退院患者に対する入退院支援加算算定割合は23.4%と2019年度実績(22.7%)を上回っており、支援が必要な患者に多職種で適切に対応しています。 ・地域の医療・介護従事者間の効率的な情報共有・連携を促進するため、下半期からリモートによるカンファレンスの運用を開始しました。 ・入退院支援センター、退院支援看護師、ソーシャルワーカーが連携強化することで、入院前から退院後までの支援に取り組みました。	○
(5) 小児医療・周産期医療の確保 【2018年度】 小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 75件/年	小児入院患者数 22人/日 母体搬送受入件数 100件/年	11人/日 72件/年	・小児入院体制の維持 ・ハイリスク妊産婦の積極的な受入	・小児入院患者数は11人/日(新生児内科含む)となりました。外来管理の充実や予防接種の充実等により、入院が必要な児童が減少している状況に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により集団行動の制限や手指衛生の徹底がされたため例年に比べRSウイルスや胃腸炎などの感染症による入院が減少したものと考えられます。市内で唯一の小児入院医療施設として、一般診療の他、循環器外来やアレルギー外来などの専門診療を行っています。 ・母体搬送受入件数は72件となりました。南多摩保健医療圏で唯一の地域周産期母子医療センターとして、今後も積極的な受け入れを行っていきます。 ・妊婦のニーズに応じ、お産の選択肢を増やすため無痛分娩を開始しました。産婦人科と麻酔科のチーム体制により安心して出産できる環境を整えています。	△

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度）

2. 収支改善に関する取組 ～収益の向上と費用の削減を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(全期)の実績	自己評価
<p>(1) 病床の安定的稼働</p> <p>【2021年度】 病床利用率 85% 新入院患者数 1,000人/月</p>	<p>病床利用率 84.0% 新入院患者数 968人/月 病床再編の実施 有償利用率 50%</p>	<p>病床利用率 68.6% 新入院患者数 780人/月 病床再編の実施 有償利用率 42.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> 稼働率の低い病床の活用方法の検討 特別室の利用率向上 	<ul style="list-style-type: none"> 東京都からの新型コロナウイルス感染症の専用病床確保要請に応じつつ、二次救急医療との両立に努めました。必要に応じて病床の編成や、用途変更など行っています。急を要しない予定手術患者の入院延期など、一般患者の入院抑制をせざるを得ない状況が続いたため、病床利用率は2019年度実績(77.9%)から9.3ポイント減少、新入院患者は2019年度実績(895人)から115人減少しました。 有償利用率は、感染症対策として個室を確保する必要があったため、患者希望による個室利用が減少し42.9%となりました。 	×
<p>(2) 診療単価の上昇</p> <p>【2020年度】 入院単価 58,000円 外来単価 14,500円</p>	<p>入院単価 64,000円 外来単価 12,500円 ハイケアユニット入院医療管理料</p>	<p>入院単価 65,563円 外来単価 13,005円 設置病棟・人員体制の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新規施設基準の取得 慢性期患者の逆紹介の推進 算定率向上に向けた取り組みの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症関連の臨時的診療報酬の要件対応に努め、要件に合致する人員配置に対応したことにより単価の上昇に繋げることができました。これらの取り組みもあり、入院単価及び外来単価は目標を上回る事ができました。 ハイケアユニット入院医療管理料については、設置病棟や人員体制等についての検討を行いました。施設基準取得には至っていません。 	◎
<p>(3) 材料費の削減</p> <p>【2017年度】 ジェネリック医薬品使用量比率(DPG) 80% (入院のみ)</p> <p>【2020年度】 材料費削減額 500万円/年 (単価差積算ベース)</p>	<p>薬品費の値引き率 11.0% 診療材料費削減額 600万円/年 (単価差積算ベース)</p>	<p>16.47% 399万円/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 薬品費の削減 診療材料費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 薬品の競争見積及び価格交渉を行った結果、年度末の薬品費の値引率は16.47%となり、目標値を5.47ポイント上回りました。 新型コロナウイルス感染症の影響により、診療材料の在庫が国内外で品薄状態で価格も高騰していることから、例年に比べて削減に向けた取り組みを進めることが難しい状況にありました。そのため、共同購入、商品切替、価格交渉等を行いました。診療材料費の年間の削減額は399万円となりました。 	○
	<p>【その他】 光熱水費 前年度比5%減</p>	<p>13.6%減</p>	<ul style="list-style-type: none"> 光熱水費の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ガスの需給契約を見直すことで、基本料金を下げることができました。あわせて、状況に応じ設備等の運用を適切に調整し、各使用量を減らすことができました。その結果、光熱水費は13.6%減(電気料金14.2%減、ガス料金15.9%減、上下水道料金9.5%減)となり、目標値を8.6ポイント上回りました。 	◎

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度）

3. 業務向上に関する取組 ～病院機能の向上を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(全期)の実績	自己評価
<p>(1) 救急診療体制の充実</p> <p>【2020年度】 救急車による受入患者数 460人</p>	<p>救急車による受入患者数 500人/月 救急からの入院患者数 315人/月 救急応需率 75%</p>	<p>救急車による受入患者数 386人/月 救急からの入院患者数 275人/月 救急応需率 65.2%</p>	<p>・救急隊との連携強化</p>	<p>・救急車による受入患者数は386人/月となり、2019年度実績(467人/月)と比べ、81人/月(17.3%)減少しました。新型コロナウイルス感染症により、軽症患者の救急車利用が減少したことが影響していると考えられます。</p> <p>・救急からの入院患者数は275人/月となり、2019年度実績(291人/月)と比べ16人/月(5.5%)減少しましたが、入院率は28%と、2019年度実績(23.9%)と比べ4.1ポイント増加しました。軽症の救急患者が減少し、当院の役割である二次救急医療の提供を行う事ができました。</p> <p>・直近1年間の東京消防庁の救急応需率は65.2%となり、前年同期(68.9%)と比べ3.7ポイント減少しました。2020年10月より、救急車の受入状況について毎朝院長と情報共有を行うとともに、2021年2月から応需状況を院内掲示板に職員へ周知を行い応需率の向上に努めています。</p>	△
<p>(2) 災害拠点病院としての機能の充実</p> <p>【2017年度】 連携訓練回数 1回/年</p>	<p>連携訓練回数 1回/年 南多摩保健医療圏災害拠点病院間における通信訓練1回/年 DMAT隊1編成の維持 災害支援ナース登録数 10人</p>	<p>連携訓練回数 1回/年 通信訓練回数 1回/年 DMAT隊1編成の維持 災害支援ナース登録数10人</p>	<p>・災害時を想定した医療機関等との連携推進</p> <p>・DMAT隊員の養成 ・災害支援ナースの養成</p>	<p>・2020年10月に総合防災訓練を実施し、町田市防災課と市防災無線を活用した訓練を実施しました。また、トリアージ訓練、職員参集・安否確認システムによる訓練を併せて実施しました。</p> <p>・南多摩保健医療圏災害拠点病院間において、災害医療センターの防災FAXや災害時掲示板、広域災害救急医療システム(EMIS)を利用した通信訓練を実施しました。</p> <p>・DMAT隊において欠員だった医師1名を補充することができ、町田市民病院として1編成が組めるようになりました。</p>	○
<p>(3) 急性期病院としての質の向上</p> <p>【2019年度】 手術件数 4,360件/年 (麻酔科管理件数 2,900件/年) リハビリ実施単位数 5,000単位/月</p>	<p>手術件数 4,500件/年 (麻酔科管理件数 2,960件/年) リハビリ実施単位数 6,000単位/月 クリニカルバスの見直し 予定入院患者に対する持参薬事前確認の運用開始 院外処方率 95% 指定抗菌薬届出率 100% 医師のインシデント報告件数 70件/年 手術部位感染率 全国平均以下5術式以上</p>	<p>4,003件/年 (2,485件/年) 5,862単位/月 見直し実施一部開始 88.6% 85.3% 67件/年 2術式</p>	<p>・手術室運営の効率化</p> <p>・急性期リハビリの充実 ・クリニカルバスの定期的な見直し ・入院支援の充実 ・薬剤業務のあり方の見直し</p> <p>・医療安全対策の推進</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、急を要さない手術については延期することとなったため、手術件数は減少しています。感染症の動向を踏まえつつ、術前PCR検査体制を維持しながら、手術件数の回復を目指します。</p> <p>・リハビリ実施単位数は、感染対策を行いながらの実施であったため、5,862単位/月と2019年度実績(5,984単位/月)を下回ったものの、減少幅を122単位/月(2.0%)に留めることができました。</p> <p>・クリニカルバスの作成及び見直しを25件実施しました。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、事務などの多職種による経営的な視点、医療的な視点における提言が行うことができるようになり、より良い見直しができるようになりました。</p> <p>・持参薬事前確認の運用は、外科の入院予定患者を対象に開始いたしました。今後は他の診療科についても実施出来るよう調整を進めていきます。</p> <p>・AST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンドにて指定抗菌薬の適正使用と共に届出の有無を確認し、届出がない場合はラウンド時に提出の指示をしました。また、診療科ごとにフィードバックし100%提出を求めました。</p> <p>・医師のインシデント報告件数は、目標を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少で全体のインシデント件数が減少するなか67件の報告がありました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の対応のため、手術部位感染のサーベイランスは2術式(大腸手術、胆のう手術)しかできていない状況です。現在、効率的なサーベイランスの実施に向けてシステム整備の準備をしています。</p>	○
<p>(4) 病院機能評価の更新</p> <p>【2017年度】 病院機能評価の更新</p>	<p>定期的な業務改善の実施</p>		<p>・業務改善の継続的な実施</p>	<p>・病院機能評価の中間報告に対する病院機能評価機構からの指摘・アドバイスについて、院内で情報共有を行いました。また 診療マニュアルの改訂作業を進めており、完成間近となっています。</p>	○
<p>(5) 外来機能の効率化</p> <p>【2021年度】 外来患者数 1,000人以下/日</p> <p>【2019年度】 地域連携予約枠利用者数 400人/月 逆紹介件数 970人/月</p>	<p>外来患者数 1,070人/日</p> <p>逆紹介件数 1,300件/月</p> <p>医師事務作業補助者による返書作成件数 1,200件/月</p>	<p>外来患者数 932人/日</p> <p>逆紹介数 1,031件/月</p> <p>医師事務作業補助者による返書作成件数 1035件/月</p>	<p>・医師の負担軽減</p>	<p>・外来患者数は932人/日となり、2019年度実績(1,085人/日)と比べて14%減となりました。外来患者数減少の要因として、逆紹介推進の取り組みのほか、新型コロナウイルス感染症拡大による患者の受療行動の変化があると考えられます。</p> <p>・外来患者数減少の影響を受けて逆紹介件数は1,031件となり、2019年度実績(1,255件)と比べて224件/月(18%)減少しました。</p> <p>・外来患者数減少の影響もあり、地域医療機関からの紹介予約は379件/月となり、2019年度実績(431件)と比べて52件/月(12%)減少しました。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響による患者数減少により、返書作成件数は月平均で1,035件と目標を達成することができませんでした。</p>	△
<p>(6) 外来化学療法センターの運営効率化</p> <p>【2019年度】 化学療法実施件数 200人/月</p>	<p>化学療法実施件数 200人/月</p>	<p>化学療法実施件数 197人/月</p>	<p>・ベッドの効率的な運用</p>	<p>・化学療法実施件数については197人/月となり、2019年度実績(181人/月)を上回りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、4月～5月は件数が減少しましたが、その後は新規患者が増加し満床となる日が増えました。特に投薬効果が上がってきている大腸がんの化学療法が増加傾向にあります。</p>	○

町田市民病院中期経営計画（2017～2021年度）及び事業計画の進捗状況について（2020年度）

4. 進化・成長に関する取組 ～人材の安定確保と育成を図ります～

項目及び中期経営計画の目標値	事業計画目標	事業計画目標に対する結果	主な取組内容	2020年度(全期)の実績	自己評価
(1) 質の高い病院職員の安定確保 【2021年度】 (常勤職員数) 医師 93人 医療技術 97人 看護師等 402人 事務 42人 (うち病院専任) 14人 計 634人	病院専任事務職員数 15人 臨床研修指導医 20人	・病院専任事務職員数 14人 ・臨床研修指導医 24人	・病院事務職員の専門性向上 ・研修医師の指導体制の充実	・病院専任事務職員数は、2020年4月に医事事務1名を採用したものの、2021年2月末に医療ソーシャルワーカー1名が退職となったため、合計で14名となりました。 ・臨床研修指導医は、2020年4月入職の医師2名が指導医を取得していたため24名となりました。 <2021年3月1日時点> 医師 87人 医療技術 101人 看護師等 386人 事務 39人 (うち病院専任) 11人 計 613人 ※育休及び休職者は含まず	○
(2) 質の高い医療従事者の育成 【2019年度】 医療安全・感染対策講習会延参加人数 3,600人/年	医療安全講習会受講率 100% 感染対策講習会受講率 100% マネジメント研修の実施 特定行為研修の実施	・医療安全講習会受講率 99.6% (前期・後期100%、K Y T 99.0%) ・感染対策講習会受講率 98.6% (前期100%、後期97.1%) ・マネジメント研修 実施 ・特定行為研修の実施 実施	・医療安全・感染対策などの研修の必修化 ・マネジメント能力の育成 ・特定行為研修修了者の育成	・新型コロナウイルス感染症の影響により、集合研修ではなくDVD貸出や電子カルテ上での動画視聴を中心に実施した結果、医療安全講習会(全3回開催)は2,536人が参加し、受講率は99.6%(2019年度比2.7ポイント増加)、感染対策講習会(全2回開催)は1,695人が参加し、受講率は98.6%(2019年度比0.4ポイント減少)となりました。 ・医師や看護師、コメディカルの管理職を対象としたハラスメント研修を2020年11月に実施し、46名が受講しました。 ・2020年2月26日に特定行為研修指定研修機関となり、4月から3名の受講者に対し特定行為区分『栄養および水分管理に係る薬剤投与』の研修を実施し、3月に全員修了しました。	○
(3) 職員満足度の向上 【2021年度】 職員満足度 65%	職員満足度 64% 職員満足度調査結果に基づいた業務改善	職員満足度 54.8% 業務改善 対応方針の決定	・職員満足度調査の実施 ・職員満足度調査結果に基づいた業務改善	・3年に一度の職員満足度調査を実施し、調査結果から課題を抽出して、改善に向けた対応の方向性を決定しました。 <職員満足度調査結果に基づく業務改善> ・看護師、医療技術職のタイムカードの導入 ・時差勤務の検討 ・相談窓口一覧の作成、周知 ・継続した教育制度の構築	○